

鶴居村固有の園芸品種が発見され 『鶴居丹頂八重』と名付けられました

下雪裡 瀬川 博己氏の庭に植栽しておりました八重咲のエゾヤマザクラが公益財団法人日本花の会(以下「日本花の会」という。)の園芸品種同定調査により新種の園芸品種であることが報告され、『鶴居丹頂八重』と命名されました。

○園芸品種同定調査とは

桜は変異性に富んだ樹木で、様々な特性を持つ個体が発見・育成されています。

公益財団法人日本花の会では、樹形、花の形や大きさ、開花期などの生態、遺伝的な特性、樹齢や歴史的な由来・伝統など、人が何らかの価値を見出した個体を、他と区別するために固有名詞を与えた桜を園芸品種と定義し、特性調査の結果を調査依頼者に報告しています。

○鶴居丹頂八重の生い立ち

関係者の記憶によりますと、かつて宮島岬付近の雑木林の中に、他の八重桜とは遺伝子が異なると思われる八重咲のエゾヤマザクラ(別名 オオヤマザクラ)がありました。

そのうち数本が村内に移植されましたが、今野六朗氏におかれては、この八重桜を増殖するため、シロザクラを台木として苗木を接木育成し村内各所に配付しました。

この度、日本花の会の調査により固有の園芸品種と同定されたサクラは、この接木育成された桜で、平成元年(1989年)頃に瀬川博己氏宅(鶴居村下雪裡)に植栽された桜であります。

2022年6月現在の樹の大きさは、地表より三幹立ちで樹高約7m、推定樹齢は30年以上となっています。なお、同様に接木育成された桜は鶴居市街地の高橋直孝氏宅にも現存しています。

○鶴居丹頂八重の特徴

『鶴居丹頂八重』は、『釧路八重』や『幣舞義美八重』と類似していますが、花弁数(24~34枚)やがく裂片の形(長卵状三角形)が異なることから見分けることができます。

○鶴居八重桜の会

『鶴居丹頂八重』が、固有の園芸品種であることが報告されたことに伴い『鶴居丹頂八重』の保護増殖、普及を目的に『鶴居八重桜の会』(会長 瀬川 勝己氏)が有志メンバーにより結成されました。今後、村内にある『鶴居丹頂八重』の存在確認や増殖に向けて活動を進めるとのことです。

『鶴居八重桜の会』は、メンバーを募集しておりますので、興味がある方は、藤原 秀達氏(電話番号：090-7511-3383)または、高橋 直孝氏(電話番号：090-9527-7114)までご連絡をお願いします。



画像提供：日本花の会